宮代町郷土資料館だより

えんがわ

創刊号

平成６年度特別展

「みやしろの円空仏」

江戸時代の遊行僧 円空は、寛永（かんえい）9年（1632年）美濃国（みのの（に）に生まれました。円空は12万体の造仏（ぞうぶつ）を発願（ほつがん）し、全国を旅しながら各地に「鉈彫り（なたぼり）」と呼ばれる素朴な仏像を残していきました。日光御成道（にっこうおなりみち）が通っているわが宮代町にも、現在11体の円空仏が見つかっています。今年度の特別展示は、「みやしろの円空仏」と題し、宮代町を囲む日光御成道沿いの市町に残る円空仏を集めて展示します。

《期間》平成6年11月1日（火）から11月27日（日）まで

《開館時間》午前９時半～午後４時半

《入館料》無料

《期間中の休館日》

毎週月曜日、第二・四火曜日、11月4日（木）

《講演会》「日光御成道と円空仏」

県立博物館の林宏一先生にお話

平成6年度特別展

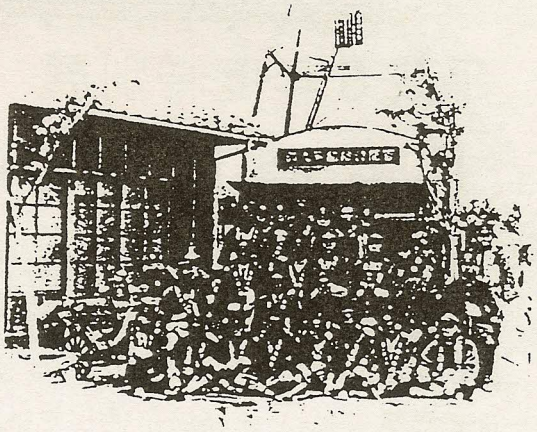
みやしろの円空仏

～企画展の案内～

「みやしろの消防１００年」

明治27年2月9日、消防の全国的統一を図るために「消防組規則」が公布されました。これによって、それぞれまちまちであった「消防組」の全国的統一がなされ、組織化されました。以来100年がたちました。宮代町郷土資料館では、9月10日から10月16日まで企画展「みやしろの消防100年」を開催しています。

文書資料では百間村消防組に関する資料として「百間二番消防組合規約書（明治21年）」等、6点を展示しています。写真資料では昭和初期の消防組関係や火の見やぐらの写真等11点、民具資料は消防組や消防団で使用されたはんてん、まとい、半鐘等や家庭で用いられた消火弾、龍吐水等を展示しました。いずれの資料からも、火災などの災害から暮らしを守るために活躍した人々の熱意が伝わってきます。そして、その思いは今も受け継がれています。



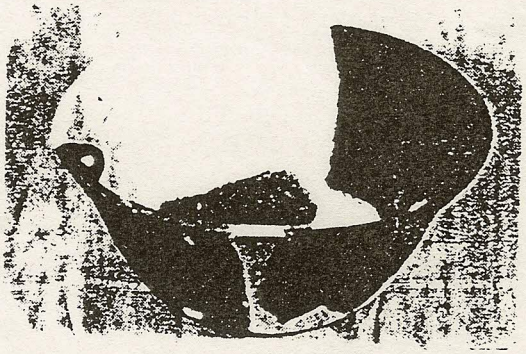
～収蔵資料の紹介～

内耳鍋

地蔵院（じぞういん）遺跡は、大宮台地の縁辺部に位置し、遺跡内には百間小学校・西原公民館・ふれ愛センターみやしろ・郷土資料館などがあります。発掘調査は、昭和６２年から平成３年までに５回にわたって行われ、縄文時代早期から中世にいたるまでの遺構や遺物が多数発掘されました。今回はその出土品の中から、戦国時代の内耳鍋（ないじなべ）について紹介したいと思います。

この内耳鍋は、内側に４個の耳のある鍋です。この耳に紐（ひも）を通し、炉やカマドの上につるして使用しました。形は直径３５㌢、深さ１４㌢を測る、素焼きの土器で、やや黒みがかった色をしています。この内耳鍋は、文字通り「ナベ」として煮炊きに用いられていたと考えられています。このような土器は、県内各地の城跡や館（やかた）・村の跡からも見つかっておりますが、町内では、初めての発見です。

この土器は、地蔵院遺跡の館の堀跡から出土したものです。この館は、戦国時代のものと考えられていますが、戦乱の中、この鍋でいったい何を煮て食べていたのでしょうか。



これ何だべな?

竹は丸いか 四角いか

シカクダケ（四角竹）

みなさん、「竹は丸いもの」と思っていませんか。実は四角い竹があるのです。

縄文時代の復元住居の前に２～３本の細い竹があるのをご存じですか。この竹を手で触れてみてください。どうです。四方がやや丸みをもっていますが、正真正銘の四角い竹なのです。

これはシカクダケまたは四方竹（しほうちく）と呼ばれる竹で、中国原産です。形もさることながら、竹の子の時期も特徴的です。一般に竹は３～５月頃竹の子がでますが、この竹は９～１０月頃にでます。この竹は、主に庭園用に用いられているということです。

このほか、資料館のある西原自然の森の中には、マダケやモウソウダケなどもあります。

「シカクダケ」手に触れてみてはいかがですか。

わたしのひとこと

土器づくり教室での小学生からの感想・意見等を御紹介したいと思います。

土器づくり教室 について

・乾いた土器を焼くと色がつくのが興味深かった。
・土器に模様を入れるのが難しかった。
・貝殻の先端を使うと、人間の顔のような模様を入れることができた。

加藤家（移築民家） について

・田舎のおばあちゃんの家に似ていると感じた。
・トイレに工夫がされているのが興味深かった。

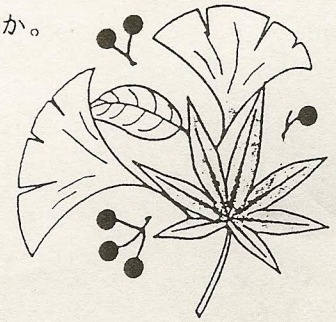
以上、貴重な御意見・御感想ありがとうございました。これからも資料館だよりでは、皆様からの、御意見・御要望等を掲載していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

コラム ―クルミの木―

◆宮代町郷土資料館だより「えんがわ」創刊号、いかがですか。民家の縁側でお茶飲み話…そんな雰囲気で名付けました。

資料館を見学して疑問に思った事、行事のお知らせ、より詳しい内容などを掲載していく予定です。ご期待ください。

◆とびきり暑かった夏も終わり、鈴虫の音とともに秋がやってきました。資料館の縄文住居の前にあるクルミの木にも実がたくさんなりました。これから紅葉のシーズン。西原自然の森に「紅葉がり」いかがですか。



資料寄贈者名簿

昭和58年から本格的に民具等の収集を始め、10年余りがたちました。この間、町民の皆様から約650点余りの寄贈をいただきました。

平成6年8月31日までに民具や古文書などの資料を寄贈いただいた方は下記の通りです。厚く御礼申し上げます。ご寄贈いただきました資料は、今後「収蔵品展」等でご紹介させていただきます。（敬称略）

団体

華蔵院

個人

青木千代子	青木佐太	新井隆
飯山周一	伊草侃斗	池沢俊哉
石井キヨ子	井上三千雄	稲山義夫
岩崎俊男	大高彰	加藤あさえ
金窪義英	金子和生	日下部義道
小島明良	小島滉	小島栄一
小林盛	斎藤勘五郎	斎藤幸二郎
斎藤繁	渋谷康	島村達彦
島村俊明	島村正次	島村哲夫
杉山ろく	鈴木愛子	鈴木明
関根英夫	関根信吉	関根文雄
関根松四郎	高畑博	田口寛
為谷幾太郎	戸田義一	成田良夫
中村己代治	中村多計志	並木秀勇
野口丈吉	萩原一丸	古谷治
柳　彰	矢部弘三	谷沢良明
吉岡郁子	吉岡嘉市	渡辺活之

今後とも、民具、古文書、写真など収集してまいりますので、ご協力の程、お願い申し上げます。

資料館日誌抄

平成5年

11月13日 宮代町郷土資料館開館
開館記念特別展「西光院の宝物」開催（～12月12日）

12月 5日 開館記念特別講演会「西光院阿弥陀三尊像と平安時代の彫刻」

平成6年

1月 7日 ミニ展示「江戸のよそおい」（～2月28日）

2月20日・27日・3月6日・13日・20日
郷土史講座「やすらぎを求めて～みやしろの仏教文化」開催

3月 1日 ミニ展示「ひなまつり」（～4月22日）

3月31日 宮代町史資料第5集「岩崎家文書」第6集「みやしろの信仰と年中行事」、「みやしろ風土記増補」刊行

4月23日 ミニ展示「絵葉書小さな旅」（～6月30日）、「むかしの道具ミズグルマ」（～7月2日）

7月 1日 ミニ展示「縄文の芸術」「むかしの道具 田の草取り」（～9月9日）

8月12日・27日 第1回土器つくり教室

9月10日 企画展「みやしろの消防100年」開催（～10月16日）

9月11日・10月2日 第2回土器つくり教室

宮代町郷土資料館だより　創刊号
発行年月日　平成６年１０月１日
編集発行　宮代町郷土資料館
〒345
埼玉県南埼玉郡宮代町
字西原289番地
☎0480-34-8882